

小児気道ハンズオンセミナー —声門上器具を使い倒す—

コーディネーター JCHO 九州病院 麻酔科 吉野 淳

医療技術の進歩は低侵襲手術を生み出した。現在では、開腹手術よりも腹腔鏡手術やロボット支援手術が圧倒的に多い。では、麻酔科領域ではどうだろうか。近年は喉頭展開も侵襲的手技と認識されるようになり、困難気道では喉頭展開（挿管操作）の試行回数を制限することが求められている。声門上器具は喉頭展開を必要とせず、気管挿管より低侵襲であり、さらに困難気道時のデバイスとしても各種ガイドラインで推奨されている。しかしながら、声門上器具で怖い思いをした経験のある方も少なくないだろう。実際、その使用率は施設や地域によって様々である。

小児麻酔において声門上器具を使わない手はない。もちろん全症例に使えるわけではないが、四肢や体表の手術に加え、腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術でも既に用いられている。喉頭展開が不要で、抜管時の体動が少ないなど、利点は多い。

ただし、声門上器具は気管挿管とは異なり、声門より上に留置する器具であるという認識が必要で、使いこなすにはそれなりのコツ（tips）がある。本ハンズオンセミナーでは、普段声門上器具になじみのない麻酔科医にも実際に手に取っていただき、いざという時に迷わず使えるよう、まずは慣れていただければ幸いである。

当日は座学とハンズオンセミナーの2本立てで皆様を迎えます。